

## 日本史

| 日程      | 大問  | 出題分野・テーマ              | 難易度 |
|---------|-----|-----------------------|-----|
| 2 月 7 日 | I   | 原始・古代の日本と外来文化         | 標準  |
|         | II  | 近世の農村                 | 標準  |
|         | III | 明治政府による北海道の近代化政策      | 標準  |
| 2 月 8 日 | I   | 前近代の水上交通              | 標準  |
|         | II  | 近世の日本社会における自然災害と政治の動向 | 標準  |
|         | III | 近現代の万国博覧会             | 標準  |
| 2 月 9 日 | I   | 中世の武家政権               | 標準  |
|         | II  | 江戸時代の儒学と女性            | 標準  |
|         | III | 近現代の税制                | 標準  |

## &lt;出題傾向&gt;

例年通り、大問が 3 題、小問が 38 問という構成になっている。出題の形式は、空所補充、文章選択（正誤判定）、語句選択、年代整序、組合せなど多様である。小問数が 38 というのは、大学入試問題として、ほぼ平均的な量と言えるだろう。ただし、文章選択問題では 2 行にわたる長めの選択肢が多くを占めるため、時間配分には注意が必要である。

各大問における設問のタイプは、①語句選択問題・空所補充問題（史料読解を求める問題も含む）、②考察力を要する文章選択問題（年代整序問題も含む）に大別され、大問ごとの難易差はほとんどない。おおむね基礎・標準レベルと言ってよいが、やや細かい知識を問う問題も一部には含まれている。

近年では、共通テストと類似した形式の設問も見られるようになっている。具体的には、①史料・表・グラフの読解を求める設問（2 月 7 日問題 I ー問 12、2 月 8 日問題 II ー問 7、2 月 8 日問題 II ー問 8、2 月 9 日問題 III ー問 6、2 月 9 日問題 III ー問 8）、②地図・図を用いた設問（2 月 7 日問題 I ー問 3）が挙げられる。

また、リード文には「近現代の万国博覧会」（2 月 8 日の問題 III）など、興味深いものが見られた。こうしたテーマは受験生にとってそれほどなじみのあるものではないため、戸惑うこともあるかもしれない。しかし、どのようなテーマであっても、時代では原始から現代、分野では政治史・対外関係史・社会経済史・文化史のすべてを対象とし、全時代・全分野をカバーしようとする出題姿勢がうかがえる問題となっており、小問の難易度や形式がリード文に左右されることはない。したがって、特定の時代・分野だけを集中的に学習しても効果は薄く、偏りのない学習が求められる。

社会経済史には特に注意が必要である。たとえば、「近世の農村」（2 月 7 日問題 II）は、多くが基本的な知識で対処できる設問だったが、江戸時代の交通、卸売市場や流通組織、諸産業などについて、単純な歴史用語の暗記ではなく、理解することを優先した学習を意識していなければ、高得点を望めない構成となっていた。社会経済史からの出題では、ほかにも「近世の日本社会に

おける自然災害と政治の動向」(2月8日問題Ⅱ)や「近現代の税制」(2月9日問題Ⅲ)が挙げられるが、過去にも「近現代の通貨体制」や「石炭と近現代の産業・経済」などをテーマとする問題が出題されていたため、過去問研究を充実させ、社会経済史に注目していた受験生は有利だっただろう。

対外関係史は、政治史とともに基本的な分野であるだけでなく、新たな履修科目として「歴史総合」が導入されたこともあって、今後ますます重要性を増すだろう。先述の「近現代の万国博覧会」(2月8日問題Ⅲ)は、いくつかの「歴史総合」のコラムなどを取り上げているため、「歴史総合」の基礎を固めた上で「日本史探究」の教科書を熟読していれば、取り組みやすかっただろう。「原始・古代の日本と外来文化」(2月7日問題Ⅰ)のような出題もあるため、前近代の対外関係についても注意が必要である。「世界のなかの日本」といった視点を意識しつつ、学習を進めてもらいたい。

## ＜学習対策＞

### 〔語句選択問題・空所補充問題への対策〕

語句選択問題・空所補充問題への対策については、基礎～標準レベルの問題がほとんどを占めているため、教科書の記述をしっかりと理解していれば十分合格点を得られるであろう。もちろん、これらの問題に対応するためには、教科書に掲載されている重要な語句を覚えていく必要があるが、単純な暗記だけでは意味がない。特に空所補充問題は、問題文の流れのなかで語句を判断する必要があるため、教科書の本文を読み進めながら覚えていくことが大事である。ただし、教科書をただ漫然と読むだけでは、そのときには理解ができ、語句も覚えたように思えても、関連する事項と結びついたかたちで記憶に残っていないことが多い。教科書で学ぶ際は、たとえば荘園・金本位制など、やや難解なテーマに出会ったならば、常にそれらの内容や仕組みをノートにメモするなどして、定着させていくことが大切である。個々の事件や政策について、因果関係を押さえつつ、背景・結果などをメモしたノートを作成するのもよいだろう。必要に応じてそのメモを参照しながら理解を深め、最終的にはメモを見なくても自分で説明ができるようになれば、入試問題に対応できるレベルでそのテーマが定着したと言えるだろう。

### 〔文章選択問題への対策〕

かなりの比重を占めている文章選択問題は、高得点を得るためのカギを握っていると言ってよい。入試本番において正しい選択肢を見つけ出すためには、単に知識を詰め込むだけでなく、演習を積み重ねることによって、解答を絞り込むためのプロセスを自分の中で確立することが大切である。こうした訓練を行うには、比較的入手しやすい「日本史探究」のみならずセンター試験の日本史Bや、共通テストの「歴史総合」にも取り組んでみるとよい。文章選択問題においては、正解を見つけるだけでなく、誤文のどの点が誤りなのかをひとつひとつ確認していくことも肝要である。また、「問題を解いただけ」では効果がないため、正答を選択できなかった問題については「なぜ間違ったのか」を考え、分析する習慣を身につけてほしい。

### 〔資史料を用いた問題への対策〕

一部ではあるが、史料・表・グラフの読解を求める問題や、地図に示された場所に関する問題が含まれており、高得点を目指すためには、こうした設問にも慣れておく必要がある。読解を求

める問題については、そのほとんどが教科書に掲載されている資史料を素材としたものである。そのため、過去問演習を繰り返すだけでなく、教科書を精読する際に、(1)注なども丁寧に読み込んで史料の大意を把握する、(2)グラフなどを眺めるだけでなく考察する、(3)図のキャプションなどを丁寧に読んでおく、といった習慣を身につけておくと、こうした設問に対応しやすくなるだろう。

#### 〔時事問題への関心をもつこと〕

時事問題が反映された問題文も出題されることに注意したい。「近現代の万国博覧会」(2月8日問題Ⅲ)や、「近現代の税制」(2月9日問題Ⅲ)は、時事的要素の色が濃いテーマだった。日本史という科目の性格上、現在おこっている出来事がそのまま出題されることは考えにくい、ニュースで取り上げられるような諸問題は、過去のどのような歴史的な出来事と関連しているのかといった意識を常にもっていてほしい。歴史に関係の深いニュースにアンテナをはっておくということも、日本史の学習においては大切なことである。

#### 〔過去問での実践練習〕

入試直前には、実践練習による最終チェックを行う。過去問を入手し、実際に時間を計りながら本番のつもりで解答してみるとよい。間違えた箇所やよくわからなかった点については、もう一度教科書に戻って確認することである。こうした作業を繰り返し実践することで、必ず合格点を得られる実力が身につくはずである。

以上